



感染予防のためシートを設置しています

A 先生の新語コーナー



wújiēchù jīngjì “无接触经济”

非接触型経済。人と人の接触による新型コロナウイルスを避けるため、中国では現代のネット技術を活用したこの経済モデルが注目されている。某料理店はオンラインで注文を受け、オフラインで指定場所に配送する新サービスを開始した。IT企業が開発した自動個人識別、体温測定、安全チェック一体化のシステムも好評だ。また、コミュニティーには無人スパーが登場した。「今回の感染は中国社会のスマート化への一大転機になる」と予測する専門家も。

(A)

木藤 奈保子 さん

Mùténg Nàibǎozǐ ①



父が中国東北地方の方にお世話になった

大学の第二外国語で中国語を始めました。実は父が長春生まれで、5歳で帰ってきたんですが、家族は中国東北地方の方に助けられたんです。父からよく聞かされた話は、引き揚げ船に乗るまでに終戦から1年ぐらいかかったのですが、当時祖父は家族とは別に暮らしていて、残された祖母や父達兄弟は知り合いの中国の方に1年ぐらい匿ってもらったそうです。最後引き揚げ船まで送ってもらった時、祖父が「このお礼は帰国したらすぐに返します」と言ったら、中国の方から「帰国したら忙しくて大変だろうから孫の代ぐらいで返してくれたらいいですよ」と言ったそうなんです。帰国後、父は中国人留学生の保証人になったり、「大同学院2世の会」に参加したりしました。私も「大同学院3世の会」に参加し、中国語を勉強したら自分に関係してるからいいのかなと思ったのが、中国語を始めたきっかけです。

中国語をガッツリ学びたくて日中学院へ

大学で中国語は2年間履修しましたが、発音もちゃんと学んでなかったし全然喋れませんでした。卒業後は大手通信会社に就職し、営業部で3年間色々なことを学んで楽しく社会人生活を送りました。ただ、ずっと海外部門を希望していたのに、英語も中国語も全然できないので、中国語のカルチャースクールに通ってみたんですが、一向に上達しない。このままじゃやりたいって言うだけで終わると思い、ガッツリ勉強できる学校を探し日中学院を見つけました。

他の学校も見たのですが、「楽しく勉強できる」と書いてある学校は選びませんでした。父のルーツでもあり、自分にとって特別なものだったので、中国語を喋れるようにならなきゃと思ったのがあります。

必死に勉強した3年間

日中学院ではゼロから勉強を始めました。大学で勉強していましたが中途半端で、基礎をしっかりとやることを求めて入ったので、基礎からしっかりと学べて嬉しかったですね。学院での思い出を考えたんですが、実は夢中で必死に勉強していたので、勉強した記憶以外あまり残っていないんです。例えば、学院から飯田橋駅まで歩く間に何個単語を覚えられるか考えたり、次の電信柱までブツブツ言って、その次の電信柱でそれを記憶してるかどうかとか、お風呂に入って20個単語覚えるまで出ないとか、頭の中は中国語のことだけでした。1年生の時は、ひたすらテキストの予習復習をやって、授業の内容を完璧に消化するようにしました。2年生の時に、たまたま台湾人の友達が出来て、とても仲良くなりチャットでやり取りをしていました。1年の時に蓄積した単語を実践で試せて良かったのかなと思います。あと、台湾ドラマのDVDを借りて、その台詞の中に習った文型が出てくると嬉しくて繰り返し言うていました。でもこれらは補助的で、主には授業をしっかりとこなすようにしました。本科では2年連続で皆勤賞、優秀賞と倉石賞を頂きました。

本科を卒業する時、就職は考えず本科研究科に進学しました。入

学した時、2年間でペラペラになれると思ってたんですが、実際はテレビのニュースは聴き取れないし、このままでは仕事では使えないと思いました。本研在籍時は免税店でアルバイトしてちょっと自信もつきました。日中学院の3年間はひたすら勉強した印象です。「中国語オタク」のようでした。

台湾ドラマ配給会社へ就職

就職活動をするに当たり、中国語のスキルアップできる職場を第一条件に探しました。その中でも自分の興味がある映像関係と服飾系に絞って探しました。条件に合う求人は少なかったため、3月まではそれを目指して、4月以降は好きな業界は外して中国語を使える仕事を探そうと思いました。そうしていたら3月の卒業後にたまたまリクナビで「台湾ドラマ配給会社・社長秘書・中国語必須」という求人を見つけ、調べたらよく見てたドラマの配給会社だったので、応募し採用されました。社長秘書は1日しかしてなかったのですが(笑)。

コミックリズという会社で、台湾の制作会社からドラマを買い付け、日本のテレビ局に売ったりDVDを販売したり、台湾の俳優を日本にプロモーション招聘したりという仕事です。当時中国語を使える人は他にいな



①撮影現場

かったため、入社してすぐ台湾ドラマの買い付けなど、台湾側とのやり取りを任せられました。いきなり台湾のあのひとあの人に連絡してと言われて、今思うと危ういことが沢山ありました。入社して数日の頃、電話で“ファンの人は来ますか”と聞かれて、当時ファンは“粉丝”という言葉しか知らず、“歌迷会来机场吗?”と聞かれ、“歌迷”が分からず、申し訳ないけどメールで頂けますかと言うことしかできませんでした。文字を見てやっと分かりました(笑)。その後は台湾の発音にもすぐ慣れ、また同時通訳の仕事はなかったので聞き返すこともできましたし、インタビューの質問など訳す時も一般的な内容だったので、日中学院の3年間で身に付いた中国語で業務を行うことができました。1日6、7時間中国語を話し、実践で鍛えられて、本当に恵まれた環境でした。

火事場の馬鹿力

テレビで見ていたF4⁽¹⁾とも仕事をしましたが、通訳も担当していたので、嬉しさより失敗しないようにと緊張の方が大きかったです。当時はボーとしていたら聴き取れなかったため、兎に角聴き漏らさないようにと神経を集中していました。スターに会えた、嬉しいと思ったことは一度もなかったです。一人で全ての通訳を任せられる事も多く聴き取れないこともあったり、聴き取れても何が言いたいのか分からず聴き返したり、そんなことが沢山ありました。

台湾でドラマ化する原作の権利を日本の出版社や原作者と交渉する仕事もやっていました。一つよく覚えている仕事は、ある作品の権利を取って撮影をしていたんですが、ラストシーンで台湾側の出てきた台本が原



②照明チームの手伝い

作と違って、作者の先生に修正してほしいと言われました。でも台湾側は原作通りよりもドラマのラストシーンとしてもう少し盛り上がりを加えたく、また台湾の文化とも合うようにしたいと、何度やり取りをしても解決しなかったんです。とうとう撮影当日になってしまい、台湾で正に撮影中に日本で出版社と会議をしました。台湾側は先生のOKが貰えなかったら今日の最終カットの撮影は中止しようかと覚悟していました。最後の最後でこれはどうですかと折衷案を出したら、それならいいかもと日本側のOKを貰い、すぐに台湾に電話してこの案だったらOKだからこれで撮ってと連絡し、最終的にその日に撮影できたということがありました。先生が引っ掛かっていた点もケアしつつ、ドラマとしてや台湾の文化との符合も考慮した案だったんですが、合意できた後も正しく台湾に伝わらなくて違う内容で撮影したらどうしようと、そのやりとりは本当に緊迫していました。その時は自分の能力を超えた提案が思いついた、実力以上の火事場の馬鹿力が出た、と思っています。それに加え、台湾側の優秀な担当者や信頼関係が築けていて、双方でベスト

な連絡と進行ができたこと、そして私達担当者以外でも台湾日本の周りにサポートしてくれた方々がいた結果だと思えます。この経験で仕事にもだいぶ自信ができました。

もっと台湾ドラマを知りたい、制作に入りたい

コミックリズで色々な経験をさせてもらい楽しかったのですが、自分は台湾ドラマの仕事をしてるのに、実は台湾ドラマのことを全然知らないと感じたんです。例えば、台湾ドラマは何であんなに雨降りのシーンが激しいの？と聞かれ、私は自分ではわからないので、買い付け先に聞いて初めて、台湾はこういうシーンが好きだし、実際の雨もとても激しく、また日本よりも雨降らし機の降らせ方が激しいということを知ったりと、このような事ばかりでした。もっと台湾ドラマを知りたい、も

っと制作に入りたい、また当時震災もあって今すぐにやりたいと思い退社しました。

台湾の会社に入れるとは思ってなくて、台湾支社のある日本の会社を探していたんですが、買い付け先の社長達に退職の報告をした際、ある社長から日本とやり取りする日本人社員が必要だからうちに来ればと声を掛けて頂きました。それが台湾のコミックプロダクションという会社です。社長は色々な国の人とドラマを作りたいと思い、当時韓国や香港、大陸と仕事をしていたんですが、日本とはあまりできていなかったのも、日本で日本人との交渉役を探していました。丁度自分の求めていたスタイルだったので引き受けました。今はドラマの仕事を優先的にやりながら他の仕事も受けていいというフリーランスで契約しています。(次号に続く)

F4⁽¹⁾ 台湾のアイドルグループ。人気漫画『花より男子』の台湾ドラマ『流星花園』に出演した4人で結成され、グループ名も4人が劇中で演じた御曹司4人組「F4」からつけられた。

①撮影現場写真。この時私は通訳兼日本人役者の中国語の発音チェックが仕事でした。

これはリハーサル中の様子です。カメラに映らない、且つ役者の視線に入らない場所、でもチェックがちゃんとできる場所で仕事していたらこんな姿勢になってました。

②ある撮影現場で照明チームの手伝いをしているところ。

木藤奈保子(きどう なほこ)さん
プロフィール

本科39期・本科研究科31期卒業
2005年～2011年 コミックリズにて台湾ドラマの買い付け業務を担当
2011年～台湾コミックプロダクションの日本担当として、ドラマや映画制作に携わる
2018年～フィガロの日本マネジメントや日本の俳優のために台湾・中国への営業も担当している
最新映画『燕Yan』ではアソシエイトプロデューサーとして参加

図書室 だより

今月の新着図書から

『中国くいしんぼう辞典』

崔岱遠 著 李楊樺 画 川浩二 訳
みすず書房



中国は食の宝庫。家庭料理からレストランの料理まで、地域はもちろん各家庭料理にもそれぞれに特色があり奥が深い。本書は長い歴史の中で人々の生活に根付いた料理について、味わい深い物語を描いている。内容を「家で食べる」「街角で

食べる」「飯店(レストラン)で食べる」のカテゴリーに分け、読みたいところから気軽に読むことができる。まさに中国料理好きな人、くいしんぼう(吃货)にとって至福のエッセイになっている。

本書に登場する料理：

『青团』『八宝飯』『生煎』『涼茶』『炸醬麵』『臭豆

腐』『烤鴨』『宮保鶏丁』ほか多数の料理が紹介されている。

《その他の新着図書》(出版者略)

- ★『重慶マニア』近堂彰一 著
- ★『「人民日報」で学ぶ「論説体中国語」翻訳エクセサイズ 入門・初級』三瀨正道 著
- ★『マカオ行ったらこれ食べよう!』伊能すみ子 著
- ★『私の伯父さん 周恩来』周秉徳 著 王敏 監修 張晶・馬小兵 訳
- ★『中国飲食故事』金新 著
- ★『世界史とつなげて学ぶ中国全史』岡本隆司 著
- ★『江南の発展 南宋まで シリーズ中国の歴史2』丸橋充拓 著
- ★『漢語の謎—日本語と中国語のあいだ』荒川清秀 著
- ★『日本語と中国語の妖しい関係』松浦喬二 著
- ★『中国紀行CKRM Vol.17 Do you really know 景徳鎮』
- ★『中国紀行 CKRM Vol.18 空海と最澄』

《お知らせ》

新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、状況により図書室の開室時間が変更になる可能性があります。開室状況について学内掲示等をご確認くださいようお願いいたします。

7月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
			1 日本語科 36 期受付 開始	2 別科 278 期授業開始	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 ●祝日	24 ●祝日	25 本科定期試験(～31日)
26	27	28	29	30	31	
●8月の日中学院 ・本科、日本語科補習予定 ・別科夏期集中講座予定			・9日～16日…閉門 ・17日…別科授業再開 …日本語科授業再開		・24日…日本語科避難訓練 ・29日…本科生のための公開講座①	

別科278期(7月期)から教室授業を再開します

新型コロナウイルス感染拡大防止並びに緊急事態宣言により、別科の授業は3月から5月休講(6月は一部授業再開)していましたが、7月期から教室授業を再開します。皆様安心して授業に参加して頂けますよう、教職員一同感染予防に努めて参ります。また受講生の皆様におかれましても、感染予防対策にご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

また、学院報は休校に伴い5月、6月号を休刊しましたが、今月号から再開します。宜しくお願い致します。

別科学生紹介制度が新しくなります!!

現在日中学院で学ばれている方が、新たに学習を始めた方をご紹介いただいた場合、

特典1 紹介して下さった方へ
クオカード 3,000円 を進呈

特典2 紹介された方には
入学金 3,000円 を割引

申請用紙は事務局にあります。入学手続き時に申請用紙をご提出下さい。

多くの皆様に「別科学生紹介制度」をご利用頂けますようお願い申し上げます。

学院長の思い出話20

弁護士の必要性

北京は外観が変化しただけでなく、経済システムも計画経済から市場経済に大転換していた。トラブルの解決方法もかつてのように何でも党・政府に訴えるのではなく、経済紛争では弁護士の協力や裁判による決着を求めるケースが増えていた。私は信頼できる弁護士と知り合いになっておく必要性を痛感した。中国国際貿易促進委員会の知人を通じて王俊峰弁護士を紹介してもらった。「国際貿易」紙に掲載した広告代金の回収や北京事務所 of 中国人職員の家庭騒動などで王氏の事務所には大変お世話になった。

王弁護士が立ち上げた金杜律師事務所はその後急速に発展して北京最大の法律事務所となり、現在では上海など国内主要都市および東京、香港、ニューヨーク、シリコンバレーにも事務所を開いている。「アジアからただ1カ国、G7に入っている日本を正当に評価すべきだ」という王氏の見解は強い説得力を持っていた。

(片寄浩紀)